12 December 2016　Vol.33

JCOMM news

日本モビリティ・マネジメント会議ニューズレター

01 2017年 JCOMM福岡大会 開催に向けて

京都大学大学院工学研究科　教授
藤井　聡

日本モビリティマネジメント会議、ＪＣＯＭＭは、２０１５年に10周年を迎え、関係各位のご尽力により本年松山で理事長としてはじめてのＪＣＯＭＭを成功裏に終えることができました。そして今、福岡での２０１７年の第12回ＪＣＯＭＭに向けて、熊本大学の溝上章志教授を中心とした開催地域の皆様の協力を得て、準備を進めています。

第１回ＪＣＯＭＭ（@東京工業大学）の頃を思い出しますと、この10年超のＪＣＯＭＭの歩みの中で、ＭＭの幅も深さも共に大きく進展してきたものと、つくづく感じます。

その結果今となっては、大学の研究やパイロットスタディだけでなく、実際に公共利用客が「Ｖ字回復」する事例や、地域の自動車分担率が数字で明確に表れる形で低減する等の実践的な成果を生み出すＭＭ事例も、毎年随分と見られるようになってきました。

とりわけ最近では、「需要サイド」に働きかけるＭＭだけでなく、「供給サイド」に意図的かつ戦略的に働きかけるＭＭの事例も、少しずつ拡大してきているものと思います。つまり、利用者に働きかけるだけでなく、交通事業者や交通行政関係者、あるいは一般市民から首長、さらには様々なレベルの代議士などに対して、「モビリティ改善の取り組み」の重要性に気付いてもらい、そうした取り組みを実際にやり始め、加速させていく事を「支援し、促進していく」というタイプのＭＭも戦略的に始められてきているように思います。

こうしたＭＭの発展は、着実に「交通界」に質的な変化をもたらしたと言えるのではないかと思います。そしてそれは、「交通」という現象の中心にあるのは機械やシステムではなく、あくまでも「感情と知性と意志と心を持った、生身の人間だ」という事実を、忘れないでモビリティを改善していく――という方向への変化です。

もちろんその変化は急激なものでも大きなものでもありません。しかしこの10年超のＪＣＯＭＭの取り組みは、ゆっくりとではありますが着実にそういう「質的変化」をもたらしていることは間違いないものと思います。

地域の発展、国の繁栄の基盤には、一つの例外もなく確実に「モビリティの質的改善」が存在している――この当たり前の事実を見据えつつ、これからも「モビリティの改善」を促す皆様の活力を支援していける様なＪＣＯＭＭの在り方を、会員の皆様とじっくりと考えてまいりたいと思います。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

02 第12回日本モビリティ・マネジメント会議開催案内

JCOMM 福岡2017 準備委員会

第12回ＪＣＯＭＭは２０１７年７月28日（金）、29日（土）の日程で、福岡県福岡市「アクロス福岡」地下イベントホール他にて開催されます。

同地は、ＪＣＯＭＭ賞創設年のプロジェクト賞を受賞するなど、ＭＭの普及発展に貢献してきた地域です。さらに、２０１５年より、市・国・まちづくり団体等が連携した「まち歩かんね、クルマ減らさんね運動」と称した大規模なまちづくりＭＭが展開されつつあります。九州地方での開催は第４回別府大会以来８年ぶりとなり、地方創生を目指す全国の交通行政関係者・交通事業者・専門家に九州からＭＭの新たな可能性を提示できるものと期待されます。

福岡大会の発表申し込み要領・締め切り等の詳細については、一月下旬を目処にＪＣＯＭＭメーリングリスト、ＷＥＢサイト等にてお知らせいたします。

歴史や伝統を感じられる町並みとグルメの「福岡」で皆様をお迎えしたいと考えておりますので、多数の皆さまのご参加をお待ちしています。

第11回日本モビリティ・マネジメント会議 松山大会の様子

平成29年度 JCOMM賞候補募集について

平成29年度も他地域の模範となるような、効果的なMMプロジェクトを表彰するJCOMM賞の公募を行います。昨年度同様、マネジメント賞、デザイン賞、技術賞、プロジェクト賞と合わせて4つの部門で公募・審査を行います。

応募要領や期日等は、1月下旬までにJCOMMメーリングリストならびにWEBサイトでお知らせします。自薦・他薦を問いませんので、奮ってご応募ください。

【JCOMM賞の主旨】

国内の様々なモビリティ・マネジメントについての様々な取組みや研究の中でも、特に優秀な取組みや研究をJCOMM実行委員会として選定し、その実現に貢献した個人あるいは団体を表彰します。これを通じて、モビリティ・マネジメントの「実務発展」と「技術発展」を期待します。

【各賞の概要】

マネジメント賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的な「一連の持続的マネジメント」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市構造問題などの交通に関連する諸問題の解消に向けて、効果的に推進されている一連の持続的マネジメントについて、個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

デザイン賞

モビリティ・マネジメントにおける実務的なプロジェクトにおいて実際に使用されたマップ、リーフレットフォルダー、アンケート票等の各種ツールの中でも、とりわけ秀逸なデザインがなされた一個、ないしは、一群のツールについて個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

技術賞

モビリティ・マネジメント実務に資する技術の発展に、顕著な貢献をなした「研究業績」について個人（複数可）を対象として授与する。

プロジェクト賞

モビリティ・マネジメントの一連の取り組みの中で実施された「実務的な一プロジェクト」の中でも、とりわけ、都市・地域のモビリティの質的改善や渋滞、環境問題、公衆の健康増進問題や都市交通問題などの交通に関連する諸問題の緩和に実際に大きな貢献をなしたプロジェクト、あるいは、そうした諸問題の抜本的緩和に繋がりうる新規性を持つプロジェクトについて個人（複数可）あるいは団体（複数可）を対象として授与する。

ニッポンのMM 第23回

札幌市におけるモビリティ・マネジメント教育の取組み

札幌市まちづくり政策局 総合交通計画部
都市交通課 都市交通係長 佐藤 格郎

札幌市では平成23年度から交通エコロジー・モビリティ財団の支援を頂戴し、「札幌らしい交通環境学習」に取り組んでいます。

札幌市内には203校の小学校があることから、我々、まちづくりを担当する行政職員による出前講座形式での学習支援には限界があることが当初から分かっていました。そこで、現場の学校教諭のみなさまが自ら授業を実施することが可能な「環境づくり」という形での支援に力点を置き、様々な活動を行っています。

活動の一つ目は、ご協力をいただいている小学校教諭のみなさまが研究授業を実施いただく際の支援です。学校の先生は「教育」のプロではありますが、「交通」のプロではありません。そこで、先生方のニーズやリクエストに応え、学習で使えるデータや教材を提供しています。さらに、学習の中で有効な情報等については、札幌市のHPに掲載することで、多くの先生方にご活用いただける環境も作っています。

次に、活動の二つ目は、副読本の発行です。札幌市で使用されている教科書に「公共交通」に関する具体的な記述はありません。そこで、小学校3年生の社会科で活用可能な副読本を作成し、26年度から毎年、市内全小学校の3年生に提供しています。また、平成28年度からは、教諭向けの指導書も作成し、こちらは、副読本の活用方法、板書計画、先生からの問いかけ、想定される児童の発言等も掲載することで、初めて授業を行う教諭でも負担無くできるように心がけています。

活動の三つ目は、現場の先生方を対象とした研修会を実施しております。平成27、28年度については、札幌市の路面電車が延伸されたタイミングをとらえ、市電の車内での研修会を実施しました。

こういった活動の成果として、平成27年に札幌市教育委員会が発行する「教育課程編成の手引き」にも交通環境学習の学習展開例が掲載され、認知や授業の実践が広がったところであります。

また、平成26年にJCOMMマネジメント賞、平成28年にはJCOMMデザイン賞を受賞させていただいたことも、我々、行政職員はもちろんのこと、ご協力を頂戴している先生方にも励みとなり、本取組への勢いがつきました。これからもこの取組が発展的に継続するよう、尽力してまいります。

←
小学校3年生社会科用
副読本
「私たちの暮らしを支える
公共交通」
（A4判、12ページ立て）

→
副読本
「私たちの暮らしを
支える公共交通」の
教諭向け指導書
（A4判、12ページ立て）

編集後記

jcommニューズレターは、この度より、運営体制が変更され、微力ながら、作成・発行に携わることとなりました。こちらのニューズレターでは、今後もJCOMMの開催案内等に加え、モビリティ・マネジメントの地域的な広がりや新たな展開を目標に様々な情報を提供をさせていただきたく存じます。これからもご覧いただき、各地域で展開されるMMの一助になれば幸いです。

（一社）北海道開発技術センター　大井元揮

発行／JCOMM実行委員会ニューズレター編集部　お問合せ／筑波大学　谷口（綾）研、愛媛大学　松村研　mail:info@jcomm.or.jp
MMに関連する会告掲載希望やご意見等、随時受付けております。